



2023.7
第74号



一般社団法人
大学女性協会
東京支部会報

- TOMOSHIBI -
Journal of Tokyo Chapter
Japanese Association of
University Women
<https://www.jauw.org>

新しいステージへ

2023年東京支部総会

東京支部 副支部長 長谷川瑞穂

4月16日、明治記念館にて支部総会が開催されました。次の三つの意味でもとてもおめでたい会となりました。

- (1) 4月は感染者が減り、四年ぶりに会員が対面で集えたこと。
- (2) 移行時の資産、即ち先輩方が作ってくださった原資をもとに支部国際奨学生、支部国内奨学生を支援でき、昨年度で終了したこと。先輩方には心から感謝いたします。
- (3) 会員(匿名)からの多額の寄付により新しい東京支部奨学金事業が発足したこと。

この特別な支部総会を、サツキの咲き誇る明治記念館の窓越しに新緑の映える「丹頂の間」で開催できたことは、喜ばしい限りです。

最初に、総会出席者48名、有効委任状提出者81名で、正会員174名の1/5を満たしていることから総会の成立が確認されました。次に鷺崎支部長から、皆様のご協力で1年間の務めを終え、支部総会を迎えることができ、ことに感謝が述べられました。続いて岩村会長から、理事会では新しい企画に取り組んでいるので皆様に積極的に活動に加わってほしいとの要望が述べられました。

議事に入り、第1、2号議案の2022年度事業報告、決算報告が可決、承認されました。続いて報告事項1、2の2023年度事業計画、予算書、新しい東京支部奨学金規程が報告されました。しかしながら本総会の後、書記の一人である田中紀子委員が都合で辞任され、

支部委員会で、太田恵子委員が書記となりました。役員人事は総会の審議事項ですが、事情に鑑み本誌上にてご承認をお願いいたします。

続いて2022年度東京支部国内奨学生の望月麻紀さんから、26年の記者生活の後、看護師を目指した経緯と、病院への就職ご決定の挨拶がありました。今後の活躍が期待されます。

午後の懇親会はガラリと雰囲気が変わり、「エデンの東」「男と女」「太陽がいつぱい」他の懐かしい映画音楽が流れるなか、中村元会長の乾杯で昼餐となりました。明治神宮に奉納されたお神酒が注がれ、祝いの膳が盛り上がりました。宴もたけなわの頃、加納前会長から6月24日の支部講演会場の今井館に関するお話(P3で紹介)、新入会員の方々から入会の動機や感想が述べられました。意欲に満ちたスピーチは、会場をいっそう明るくしてくれました。また、市川副会長が懇親会からご参加、全国総会参加の呼びかけをしてくださいました。収益事業委員会のバザーも好評でした。また、トルコ地震支援募金箱に34,500円が集まりました。ご協力感謝申し上げます。



写真上段：右から
鷺崎支部長、
長谷川副支部長
左：総会風景
上：新入会員の方々

INTERVIEW

中道貞子さん 元気の源は 好奇心

大学女性協会副会長、奈良支部長

6月2日、大雨の中をJAUW事務所に駆けつけてくださり、インタビューが実現しました。聞き手は鷺崎支部長と編集委員の安東です。



中道貞子(ていこ)さん
2018年JAUW入会、2022年企画担当副会長 就任

化の歴史をほんの数日の間に見せてくれるのです。はじめは魚のように丸くて小さかった口が、獲物をとらえやすい大きな口へ。目も飛び出してきて顔つきが変わり、尾もなくなり、陸上生活に適応できるように、体の中でさまざまな変化が起こります。この過程がたまたま魅力的で、「生きものつすごい！」を子どもたちに伝えたいと思いました。

母校奈良女子大学の附属中・高校で30年間理科(生物)を教えた後、副校長を5年務めました。

アフガニスタンへの思いは？

2002年7月に附属学校部長から「奈良女子大学ではアフガニスタンの女性教員支援を行うことになった。翌年、女性教員を日本に迎えるにあたって事前調査団を派遣するので加わってほしい」と言われました。未知の国に興味があり、「はい」と即答。それがこの国と深く関わることになったきっかけです。調査時には顕微鏡や偏光板を持ち込んで実験、生徒たちは熱心に取り組んでくれました。2003年にはJICA短期専門家として3月と8月、3週間ずつカブールで理科教育指導をしました。

私費でバミヤンに校舎を建設

アフガニスタンでは私はバミヤンにとっても惹かれます。バミヤンの大仏はタリバンに破壊されましたが、日本で私が学校に行くときに東大寺大仏の前を通りますので、牧歌的なところが奈良と似ていると思うのです。「バミヤンに学校を！」の気持ちがあつたので、チャプドラ村の学校の



写真提供：中道様

校舎建設を全面的に支援することを決意。2005年10月、オーブニングセレモニーを執り行うことが叶いました。生徒の中に足の悪いアレフがいました。アフガンでは手術を受けられないので日本に招きました。彼は歩けるようになって帰国。今は、私の連絡係として活躍してくれています。

奈良支部長としてのご活動は？

近畿支部グループ(神戸、京都、大阪、奈良)で国内奨学生オンライン講演会を6月18日に開催。こういった支部間の繋がりが大事だと思っています。ボランティアアガイドをお願いして歴史散歩を企画、これも近隣の支部をお誘いして喜ばれています。

広い世代に会をもっと知っていただき、「見える化」「活性化」を図りたい。伝えたいものを明確にし、未来に希望をもてる社会のために、みんなで解決の糸口を見つけないと思っています。

今後のJAUWに何を望まれますか？

若い人には海外に出て自分の目ですっきりと世界の現実を学び、自国に戻って役に立てる人になってほしい。大学女性協会として、若い人が活躍できる社会に貢献できればと願っています。

元気の源は？

それは「好奇心」です。



ライフワーク「生きもの」に興味を持ったきっかけは？

京都の公立小・中・高で学び、実験が大好きな子どもでした。一瞬にして色が変わる化学変化に魅せられました。大学は奈良女子大学理学部化学科が第一希望でしたが、合格できたのは第二希望の生物学科動物学専攻でした。本意なスタートではありませんが、高校で学ばなかったDNAを知り、生物の本当の面白さに目覚めました。

カエルとの出会い

卒業ではモリアオガエルの発生に取り組みました。カエルは、四億年前、生きものが水中から陸上に出現した進

東京支部
講演会

能の中の女性たち

はやしのぞむ

講師 林望氏



「リンボウ先生」でおなじみの林望氏による講演会が、6月24日、文京区の今井館聖書講堂で開かれた。静謐で安らぎを与える祈りの空間、出席49名、うち一般参加者が23名。能においては、「男は男らしく、女は女らしく」といったジェンダー偏向はなく、人間性そのものが描きだされる。本誌では能に登場する6つのタイプの女性を紹介する。

一 孤独な女 能「葵上」

葵上は光源氏の正妻、気位高く教養の深い高貴な女性だが、うるはし（端正で愛らしさに欠ける女性）と形容され、源氏の音づれ（音を出して来訪を告げる）も遠のく。能では病床にある葵上を畳んだ小袖（出し小袖）を舞台に置くことで表現。賀茂の祭りの際に葵上一行から受けた侮辱に耐えかね、恨み、恋慕の情から生霊となって葵上を苦しめる六条御息所がこの能の主人公。

二 勇ましい女 能「巴」

巴御前は木曾義仲の愛人であり女武者、最後の5騎になるまで共に戦ったが、義仲に最後まで女を伴っていたのでは終生の名折れ、落ちのびろと命令され、最後の一戦として、薙刀を縦横無尽に振り回し、敵を打ち倒して去っていく。能では義仲を一途に慕い、愛し、そのまっすぐな思いを訴える女性として描かれる。女丈夫ぶりがかえって切ない思いを際立たせる。御前とは素拍子で舞う男装の美女のこと。

三 待つ、捨てられる女 能「砦」

世阿弥の傑作。当時は通い婚、常に女性は男の音づれを待つ身。訴訟で京に上った夫は3年たっても戻らず、夜寒のころになっても一向に帰らない。牡鹿のなく声、松風の音、どこかで砦を打つ音が、一人寂しく夫を待つ女の切々とした侘しさを最も美しく造形する。やがて女は狂気に陥り亡くなる。

四 情欲に駆られる女 能「道成寺」

純粋な乙女が恋の炎に身を焼かれ、蛇に化身し、お寺の鐘の中に逃げ込んだ青年僧を焼き殺してしまうというのが道成寺縁起絵巻に描かれる話。能ではこの後が扱われる。鐘の再建の供養の折、女人禁制にもかかわらず、白拍子（身分制度の外）が推参、舞を奉納し、乱拍子となって鐘の中に消え行ってしまう。純粋な、思い込んだら命がけの恋はまかり間違えば、異常なものになる可能性をも孕んでいる。

五 老女もの 能「姥捨」

「桧垣」「姥捨」「卒塔婆小町」は「三老女」といわれる。奥伝の曲。能は物まね（写実芸）を本質としているが偽の位（写実しない位）に属する曲。年寄りは何事も若くしたがるものだとすることが演じるときの大事。甥に捨てられた老婆が、あまりに美しい秋の夜、歌枕を見に都人があらわれてうれしくなり、昔を思い出し懐かしんで、亡霊となって若い盛りの自分にもどり、華やかに舞う。本来は甥の歌った歌を老婆が歌ったものとして扱い、素材を自在に入れ替えることによって、しみじみとした中に華やかさを感じさせる曲になっている。

六 子ゆえの煩惱 能「隅田川」

最も強い煩惱は、子を思う母の執念。かどわかされた子を訪ねて、芸能者に身を落とし、京からさすらって来て、隅田川を渡る母が、船頭との問答の一言一言に心を打ち砕かれていく様を描く。子を失った切実な悲しみを訴えかける。

林望氏いわく。このように、能は一人一人の心に染み入る人の心の真実を扱うものである。形を見せるのではなく、どなたの心にもある人間性の様々な側面をいろいろな場面を借りて演じて見せる。だからこそ共感でき、長きにわたり伝え受け継がれてきたといえる。

お話は、資料としてご用意くださった『源氏物語 賢木』までたどり着かず、次回が待たれることになった。

（報告 鈴木公江）

今井館について：

近代日本史上、無教会キリスト教伝道者の粋をはるかに超えた影響力のあった内村鑑三が、終生ここで聖書の真理を説き続けた建物である。彼とその思想を受け継ぐ人々の著書1万余点を所蔵する。幾多の変遷を経てこの地に至り、往時の面影を随所に残している。



法人改革に伴う 東京支部 奨学金事業について

実施事業等会計が終了しました。

国による法人改革に伴い、JAUWでもそれまでの社団法人から、一般社団法人を目指して5年の準備期間を経て、2011年に申請し認可され、2012年4月から一般社団法人になりました。ただし、社団法人の時に持っていたすべての財産を使い切るまでは、移行法人として内閣府によって管理され、財産は公益事業のみに使うことに限定されました。その間は毎年公益目的支出計画実施報告書を提出することが義務づけられています。JAUWでは17年で使い切ることを内閣府に届けています。

この財産は本部の財産だけでなく、移行時に支部が持っていた財産も含まれます。正味財産増減計算書内訳表の左側の、実施事業等会計です。東京支部では先輩諸姉の努力による4,365,792円の財産がありました。すべてを公益事業で使うことが義務づけられました。東京支部では、当時の委員会、総会での計画・検討を経て2009年度から東京支部国際奨学金（2名年額各2万円、後に年額各4万円を卒業時まで）を、2012年度から東京支部国内奨学金（1名20万円1回）を始めました。2022年度でこの時の財産は計画どおり0円となりましたので、実施事業等会計は、本部に先んじて、終了しました。2023年度からは、すべての事業は、その他事業で行うことになりました。

奨学金事業が新設されました。

2022年度までは、実施事業等会計を原資とし、支部国際奨学金、支部国内奨学金事業を行ってきましたが、実施事業等会計終了に伴い奨学金事業も、すべて終了することになりました。

支部国際奨学生は、2009年度から4ヶ国7名へ、支部国内奨学生は、2012年度から11名に支給することができました。

2年前に、会員の方から、奨学金事業へ100万円の指定寄付を受けました。それを原資として、その他事業の事業6で、新たな奨学金事業として、東京支部奨学金（通称は従来と同じチャレンジ奨学金）を立ち上げました。新たな奨学金は、応募資格を「23ヶ月以上の就労の後、東京支部圏に本部を置く文部科学省の認可する大学の3年次または大学院1年次に在学する女性・性自認女性とする。」としました。今後数年間はこの奨学金事業を続けることとなります。

（報告 支部委員 森川淳子）



支部総会にて、左から菊地委員と森川委員

Message

新たな一歩！を
踏み出す年に

中村久瑠美

国による法人制度の法改正に伴い、2012年4月から大学女性協会はそれまでの文部省認可の社団法人（公益法人）から一般社団法人に衣替えしました。ただし、それまでの資産を公益事業に使い切るまでは、移行法人として内閣府の管理下におかれ厳しい管理を受けることを条件とされておりました。

それがこのたび、東京支部では本部に先駆けて、二つの奨学金事業によって従来からの資産を使い切り、実施事業会計を終了させることができました。これはひとえに、長年これらの事業に携わってこられた委員はじめ関係各位のご努力の賜物です。東京支部の皆さま、おめでとうございます。次年度からは、長年の足かせから解放され、新たな一歩を踏み出すこととなります。伝統を受け継ぎつつ、時代に即して発言し行動する大学女性協会東京支部を創り出していきますよう。

（2014年度―2016年度上期会長）



支部総会時の中村元会長

東京支部の事業

以下で支部の事業の内容について、次のページで会計について記載します。

2022年度東京支部事業報告

支部事業

4月17日 支部総会 於 JAUW事務所
出席11名、議決権行使書による出席88名
(会場出席者の議決権行使書を含む)計88名により開催
第1号議案～第5号議案を原案どおり承認

4月17日 第1回支部委員会
年度内10回開催 (対面・オンライン併用)

奨学金事業

東京支部国内奨学金 (通称 チャレンジ奨学金)
2年以上の就労経験後、大学3年に在学する女性1名に
20万円支給

7月15日 東京支部国内奨学生募集

2023年1月28日 望月麻紀 (慶應義塾大学看護医療学部3年) 奨学金支給

東京支部国際奨学金
発展途上国の高等教育機関に在学する女性2名に
年4万円支給
・バネッサ・ユバネス・マサムロック (フィリピン)
・ピュ・プイン・マイ (ミャンマー)

10月、2023年3月 東京支部国際奨学金支給

広報

7月25日「ともしび」第72号発行

2023年3月6日「ともしび」第73号発行

ホームページ:

随時更新「ともしび」第1～第55号のPDF版を掲載

メールマガジン:

登録者に、本部、支部のお知らせを随時配信

講演会・勉強会・見学会

6月12日 第1回 東京支部オンライン講演会
講師: 陳兆昱氏 (本部ホームズ奨学生)
題目: 「女性の政治参加と国家間紛争」

11月20日 第2回 東京支部オンライン講演会
講師: 長谷川瑞穂 (東京支部会員)
題目: 「言語保持と社会変化に対応するイヌイトの女性たち」

その他

サークル活動: 水墨画教室 映画クラブ

寄付活動: 中野区視覚障害者福祉協会へ使用済み切手を送付

本部事業 (主な事業・支部関連事業)

5月22日 JAUW第11回定時会員総会
於ANAクラウンプラザホテル岡山
出席者85名、議決権行使書による出席247名、
計332名により開催

6月～9月 JAUW国内奨学生東京支部圏募集・選考・候補者推薦
JAUW国内奨学金 (※東京支部圏の募集と選考担当)
・募集書類発送: 41大学
・応募: 27大学 31名
・本部選考結果: 東京支部推薦から一般奨学生2名、
安井医学奨学生1名、
社会福祉奨学生2名採用

10月22日 2022年度JAUW公開シンポジウム
於 エッサム神田ホール2号館会議室
「教育・ジェンダー・共生—ユースの視点から
見直そう これからの日本—」

2023年1月14日 新春のつどい 於 学士会館201号室

2023年度東京支部事業計画

支部事業

4月16日 支部総会 於 明治記念館
支部会員の出席と委任状により開催
4月22日 第1回支部委員会 年度内10回開催

奨学金事業

7月15日 東京支部奨学生募集 (通称 チャレンジ奨学生)
2024年1月 東京支部奨学金支給

広報

7月24日 「ともしび」第74号発行
2024年3月 「ともしび」第75号発行
ホームページ: 随時更新
メールマガジン:
登録者に、本部、支部のお知らせを随時配信

講演会・勉強会・見学会・懇親会

4月16日 懇親会 (支部総会後)
6月24日 講演会 講師: 林望氏
題目: 「能の中の女性たち」
会場: 今井館聖書講堂

その他

サークル活動: 水墨画教室 映画クラブ

寄付活動: 中野区視覚障害者福祉協会へ使用済み切手を送付

本部事業 (主な事業・支部関連事業)

5月21日 JAUW第12回定時会員総会
於 グランドプリンスホテル新高輪
6月～9月 JAUW 国内奨学生東京支部圏募集・選考・候補者推薦
10月21日、22日 全国セミナー 於 エッサム神田1号館予定
2024年1月13日 新春のつどい 於 学士会館

◎新たな企画は、随時お知らせします。

2022年度 東京支部 正味財産増減計算書内訳表 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位:円)

科 目	実施事業等会計					その他会計			支部計	備 考
	事業1 セミナー・ 調査研究	事業2 奨学金・奨励金	事業3 国際奨学・支援	事業4 国際ネットワーク		事業5 広報・情報	事業6 会員活動	小計		
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
本部会計からの繰入金収入(交付金)						120,000	42,000	162,000	162,000	158口 入会金4口
支部活動費						172,000	172,000	344,000	344,000	172口
事業収益										
シンポジウム・講演会・講座事業収益										
支部総会事業収益										
その他の行事参加費										
受託事業										
補助金収益										
受取寄付金							24,000	24,000	24,000	サークル他
受取利息		2			2		28	28	30	
その他収益										
経常収益計(A)		2			2	292,000	238,028	530,028	530,030	
(2) 経常費用										
事業費										
会議費		1,220			1,220				1,220	
会場費										
旅費交通費							40,000	40,000	40,000	
通信運搬費		8,378			8,378	4,700	62,163	66,863	75,241	
消耗品費①		503			503		8,658	8,658	9,161	②以外の消耗品費
印刷製本費						231,000	3,220	234,220	234,220	「ともしび」72号73号
諸謝金										
研修費										
支払負担金										
支払助成金										
支払寄付金										
支払奨学金		200,000	80,000		280,000				280,000	
諸会費										
図書・資料費										
雑費		400	530		930	660	209	869	1,799	
事務所費										
給与手当		37,500	37,500		75,000	37,500	37,500	75,000	150,000	
光熱水料費		4,000	4,000		8,000	4,000	4,000	8,000	16,000	
消耗品費②		4,250	4,250		8,500	4,250	4,250	8,500	17,000	
経常費用計(B)		256,251	126,280		382,531	282,110	160,000	442,110	824,641	
当期経常増減額(A-B)		△ 256,249	△ 126,280		△ 382,529	9,890	78,028	87,918	△ 294,611	
2. 経常外増減の部										
当期一般正味財産増減額(C)=(A-B)					△ 382,529			87,918	△ 294,611	
一般正味財産期首残高(D)					382,529			3,197,201	3,579,730	
一般正味財産期末残高(C+D)					0			3,285,119	3,285,119	
III 正味財産期末残高(C+D)					0			3,285,119	3,285,119	

資金残高(2022年3月31日現在)
実施事業等会計
その他会計

現金	銀行名	預金額
0	三菱UFJ銀行	0
8,551	三菱UFJ銀行	3,276,568

会計
菊地 康子
森川 淳子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており、
間違いのないことを証明いたします。

2023年3月23日

会計監査 佐々木澄子 印
会計監査 早川 恵子 印

2023年度 東京支部 予算書(正味財産増減計算書内訳表) (2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位:円)

科 目	実施事業等会計					その他会計			支部計	備 考
	事業1 セミナー・ 調査研究	事業2 奨学金・奨励金	事業3 国際奨学・支援	事業4 国際ネットワーク		事業5 広報・情報	事業6 会員活動	小計		
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
本部会計からの繰入金収入(交付金)						100,000	78,000	178,000	1178,000	172口 入会金6口
支部活動費						236,500	83,500	320,000	320,000	160口
事業収益										
シンポジウム・講演会・講座事業収益							80,000	80,000	80,000	講演会参加費等
支部総会事業収益										
その他の行事参加費							225,000	225,000	225,000	懇親会費
受託事業										
補助金収益										
受取寄付金							15,000	15,000	15,000	サークル他
受取利息							20	20	20	
その他収益							5,000	5,000	5,000	
経常収益計(A)						336,500	486,520	823,020	823,020	
(2) 経常費用										
事業費										
会議費							320,000	320,000	320,000	総会懇親会、講演会他
会場費							20,000	20,000	20,000	講演会等
旅費交通費							100,000	100,000	100,000	講師お車代含む
通信運搬費						5,000	57,000	62,000	62,000	
消耗品費①						5,000	15,000	20,000	20,000	②以外の消耗品費
印刷製本費						242,000		242,000	242,000	「ともしび」12回発行
諸謝金										
研修費										
支払負担金										
支払助成金										
支払寄付金										
支払奨学金							200,000	200,000	200,000	
諸会費										
図書・資料費							10,000	10,000	10,000	
雑費						500	2,000	2,500	2,500	
事務所費										
給与手当						70,000	73,000	143,000	143,000	
光熱水料費						7,000	8,000	15,000	15,000	
消耗品費②						7,000	8,000	15,000	15,000	
経常費用計(B)						336,500	813,000	1,149,500	1,149,500	
当期経常増減額(A-B)						0	△ 326,480	△ 326,480	△ 326,480	
2. 経常外増減の部										
当期一般正味財産増減額(C)=(A-B)								△ 326,480	△ 326,480	
一般正味財産期首残高(D)								3,285,119	2,958,639	
一般正味財産期末残高(C+D)								2,958,639	2,958,639	
III 正味財産期末残高(C+D)								2,958,639	2,958,639	

2022年度東京支部国内奨学生レポート

(チャレンジ奨学生)

勉学の概要と現況

慶應義塾大学看護医療学部卒業(2023年3月)

和田奈央

私は津田塾大学英文学科を卒業後、証券会社、特許事務所での勤務を経て、助産師を目指し慶應義塾大学看護医療学部2年生に編入しました。そして皆様のご支援のおかげで、2023年3月に看護師国家試験に合格し、慶應義塾大学を卒業いたしました。

在学中特に印象深かったことは、看護学実習での患者さんたちとの出会いです。合計で8領域の実習を回りますが、どの患者さんもそれぞれの決意や思いを胸に療養していることを知りました。そして、人は困難なことがあることも、その事実を受け入れ対処していく強さがあることも教えてもらいました。今でも一人一人の患者さんたちを尊敬しています。臨床に出ても、このことを心に刻んでおきたいと思っています。

そのほか在学中は、医療経済学、データサイエンス、公共政策学、犯罪心理学など、看護学以外にも多様な学問を学び、広い視野を得ることができました。よりよい出産・子育てのためには制度を変える必要があると考え、出産ケア政策に関する任意団体での活動にも取り組んでいます。

2023年4月からは、助産師になるという目標を実現するため、湘南医療大学専攻科助産学専



攻に入学し、引き続き勉学に励んでいます。実は昨年度、看護師資格だけでなく助産師資格も取得する予定でしたが、思わぬ怪我をしてしまい、助産学実習を履修できず、助産師資格は取得できませんでした。その際はとても気落ちしましたが、助産師をはじめとする諸先輩方が私の気持ちの表出を促し、それまでの努力を認めてくださったことで、前を向くことができました。思い返せば、これは私が助産師として実践したいケアそのものでした。現在は先生方や学友にも恵まれ、充実した毎日を送っています。今ではあの経験も意味があったと思うことができますようになりました。

2024年4月からは、都内の総合周産期母子医療センターに就職する予定です。妊産婦さんやご家族が持つあらゆるニーズに対応できる実践力を身につけたいと思っています。

奨学金贈呈式の際に東京支部の先輩方がかけてくださった激励のお言葉は、今でも私の励みとなっています。私の目標は女性たちが「産んでよかった」「また産みたい」と思えるようなケアを提供できる助産師になることです。山あり谷ありではありますが、これからもその目標に向かって精進してまいります。

2023年度の東京支部奨学生を募集しています。皆様からお声がけください。

一般社団法人大学女性協会 東京支部奨学生(通称 チャレンジ奨学生) 2023年度募集要項

一般社団法人大学女性協会東京支部は、企業、官公庁などでの就労の後、大学または大学院で勉学・研究中の女性・性自認女性に奨学金を支給する。卒業後は再び就業により広く社会に貢献することを条件とする。

I 応募資格

23ヶ月以上の就労(アルバイトを除く)の後、東京都・沖縄県・神奈川県・埼玉県・千葉県・山梨県・三重県に本部を置く文部科学省の認可する大学の3年次または大学院1年次に在学する女性・性自認女性とする。卒業時まで同大学に在学することを条件とする。就労以前の学歴は問わない。

II 支給額および募集人数

奨学金20万円を1名に1回支給する。返還は求めない。

III 応募提出書類

- (1) 一般社団法人大学女性協会東京支部奨学生応募書
 1. 所定の様式による
 2. 応募理由は、全体で1000字程度
 3. 指導教員は、主な履修科目の指導教員であること
- (2) 履歴書・自己紹介書
 1. 所定の様式による
- (3) 大学の在学証明書

備考(1)(2)は、ホームページからダウンロードし、印字可。

IV 応募方法および締切り

応募者は応募書類を在学大学へ提出する。大学は一括して2023年10月19日(木)(必着)までに大学女性協会東京支部に提出する。

V 選考結果通知

本人および大学学長に11月末までに通知する。

VI 支給

1月予定。別途連絡する。

VII 奨学生の義務

卒業後2ヶ月以内に「勉学・研究の概要と現況」(800~1000字)を大学女性協会東京支部に提出すること。提出のない場合は、奨学金の返還を求められることがある。「勉学・研究の概要と現況」は、支部会報「ともしび」に掲載する。同封会報「ともしび」参照のこと。

【問い合わせ先】

一般社団法人大学女性協会東京支部
 支部長 鷺崎千春
 〒160-0017
 東京都新宿区左門町11-6 バトリシア信濃町テラス 101
 Tel:03-3358-2882 Fax:03-3358-2889
 Email:jauw@jauw.org URL:https://www.jauw.org



ホームページでもご案内しています。このQRコードをご活用ください。

第12回定時会員総会・全国総会に出席して

● グランドプリンスホテル新高輪「天平」

支部長 鷺崎千春

今年は2014年以来の東京での開催、理事会主催の総会となった。定時会員総会とは議案書にある議事の承認が成される総会を示す。5月21日(日)午前9時半、出席者65名、議決権行使書提出者334名により総会が成立、岩村会長からこの1年を振り返って挨拶があった。第1号議案、第2号議案の議事が承認され、全国セミナーのお知らせ、次期総会開催地のお願い等が続いた。

午後、全国総会へと移り、支部長会の報告、各委員会報告がなされた。昨年に続き「会員増強のためのワークショップ」では山下支部担当理事のリードで8つのグループに分かれ、20代から70代まで各年代別の当会への入会を誘うアプローチが提案された。

総会に先駆け、20日(土)には支部長会(理事・監事と19支部からの支部長出席)が開かれ、各支部独自の活動の取り組みや、会員数を保持するための様々な工夫が話された。若い方に関心を持っていただき、活動に参加していただくのが喫緊の課題である。支部長会のあとは天平の間に移り、懇親会。受付ホールでは収益事業委員会によるバザーと、『災害の記憶をつなぐ』の冊子の申し込みが行われた。

会員同士の交流を楽しんだ会食のあと、3人の若い奏者による箏、十七絃、尺八の邦楽演奏となった。解説の佐野奈三江先生は、1995年の横浜国際大会の晩餐会で箏を演奏してくださった方、当時の会長青木怜子さんも駆け寄られ、ご縁を喜んだ。22日(月)総会締め括りの研修会は、①東京湾を巡るシンフォニーモデルナのランチクルーズ、②歌舞伎座恒例の「団菊祭五月大歌舞伎」初代尾上真秀(おのえまほろ)が初舞台を務めた。どちらも食事、内容とも好評であった。



上: 岩村会長 右: 懇親会での箏、十七絃、尺八の邦楽演奏
写真: 広報委員会より



点描画

同窓のつながり (and beyond)

中野眞佐子

『ともしび』の企画画「点描画」に、私などが最初の点を描いていいのだろうかと思っただが、私だからいいのかもしれないと思いなおした。チャットルーム的なこの話を読まれた方は、これなら私も描けると寄稿が殺到し、最初の点はあつという間に塗り重ねられ、素敵な絵となつていくことを期待している。

先日、新緑の美しい木々に囲まれた素敵な成城大学のキャンパスで行われた森山良子さんのコンサートにお誘いいただいた。これは、「同窓の日」いわゆるホームカミングデーの催しであり、森山さんは成城学園高校の卒業生。立派なコンサートホールは、老老若若男女女ぐらいの割合でぎっしり埋まっていた。76歳とおっしゃる森山さんは、信じがたいエネルギーと歌唱力で私達を圧倒した。しかも、コンサートの売上は同窓会に寄付という、チャリティー精神にも感動。

森山さんは、ジャズトランペッターだった父の演奏をずっと聴いていたので、ジャズシンガーを目指していたそうだと。ところが、中学3年の時に、当時の音楽仲間から「これを聴いておけ！」と一枚のシングルレコードを渡された。それがフォーク歌手への方向転換のきっかけとなり、デビュー50周年も迎えられた。

そのレコードは、ジョン・パエズ(今も健在)のシングルだった。森山さんが「ねえ、黒パン？」と会場にいらしたその先輩に問いかける。すると、「うるせえ！」と即反応が。「うるせえ、だって！ おー怖！でも、とてもいい先輩なんですよ」と、先輩後輩ならではのやり取りに、ほっこり。会場全体が見えない同窓の糸でつながっているような一体感に溢れ、同窓生ではない私にも波及効果があった。

同窓の優しさ、温かさを再認識させてくれるひと時だった。同時に、同窓を超えて新たなつながりが広がっていく素晴らしさも忘れずになりたいと思った。

〈点描画〉は会員同士の
気ままなチャットルームです
暮らしの中で感じたこと、
出逢ったこと・・・を、ご投稿ください
送付先: jauw.tokyo@gmail.com
件名: 点描画

tenbyouga

水墨画教室 墨の香りに包まれて静かなときを

6月9日(金曜日) 雨上がりの午後、四谷三丁目の事務所会議室では、いつものように、水墨画教室が開かれていました。

部屋中に墨のよい香りが漂っています。講師の日高絹紅先生(東京支部会員)がその日に用意された題材は、山形、立石寺の杉木立と、水仙です。皆さんがお手本を見ながら、静かに筆を走らせています。先生のご指導によって、同じお手本からそれぞれの個性豊かな作品が出来上がります。

毎年横浜で開かれる社中展には全員が出品しています。また、先生の所属している国際書画連盟の展覧会(国立美術館)にも出品して、大きな賞を受けるほどの腕前の方もいます。

若干名募集中、初心者大歓迎。お試し体験もできます。これからも、「ともしび」にご紹介していきます。



飛鳥の太子像 福士 仁三代



令和二年
コロナ禍での不安と
その先に見える希望
桑折 美子

◎ご案内

第2金曜日
午後1時半~3時半
場所: JAUW事務所 会議室
講師: 日高絹子(絹紅)会員
連絡先: 森川淳子
Tel&Fax: 045-583-3430



日高先生



映画クラブ 映画の世界をご一緒に



映画館で映画を観て、映画談議を楽しむ当クラブ。誕生から2年半、発足時と同じ顔ぶれ(7名)で活動しています。

第8回クラブデーは、4月25日。ヒューマンドラマ映画「幻滅」を観た後、ランチを食べながら、感動を分かち合いました。

バルザックの「人間喜劇」の一遍を原作とする本作の舞台は19世紀前半のパリ。恐怖政治が終わり、復活した宮廷貴族が享樂的な生活を繰り広げる中で、詩人として成功することを夢見て田舎から出てきた純朴な青年が、世俗にまみれながら悪戦苦闘する物語です。献身的な恋人を得、新聞記者としての栄光をつかみ、上流社会への扉が開かれたかに見えたとき...

監督のグザビエ・エジヤノリは、学生時代に原作を読んだときから映画化したいと思っていたというだけあって、息をつかせぬ面白さ。

「二人一人の人間がよく描かれていてるわよね」「一人の貴族女の気まぐれで、青年の人生変わっちゃうのね」「主役の俳優、スタイルも良いしハンサム!」「でも、アラン・ドロンみたいな完璧な美しさじゃないわ」と、おしゃべりはつきません。

今回は、切り絵作家の筑紫ゆうなさんがゲストとして参加してくださいました。お父様譲りの映画フリークならではの、興味深いトークも加わり、あっという間に夕暮れ時。名残が尽きない中、皆さま後ろ髪引かれる思いで、家路につきました。

(記・安東桂子)

『シネマ通信』
東京支部のホームページにも
掲載しています。



◎ご案内

隔月開催：
その都度日程、時間、場所を連絡
入会申込、連絡先：
Email: jauw.tokyo@gmail.com
Tel&Fax: 045-541-2481
(中山正子)



「幻滅」のリーフレット

《ともしび》投稿募集

ITと私



手計算から電卓に、手書きからワープロへ、そして、すべてがコンピュータになっていった…。この数十年、急速な技術の発達に合わせて、日常のツールを工夫してきた皆様ならではの思い出、あるいはお考えなど、どうぞご自由に。

応募要領

テーマ：「ITと私」
原稿題目(見出し): 仮でもOK 字数: 800字以内
記載事項: 氏名(ふりがな)
締め切り: 2023年(令和5年)12月25日
掲載予定: 『ともしび』75号(2024年3月発行)

所属支部、住所、連絡先(固定電話/携帯電話)を記載のうえ、郵送またはメールでご送付ください。

宛先

(一社) 大学女性協会 東京支部 ともしび投稿係
Email: jauw.tokyo@gmail.com

JAUW東京支部 見学会

武蔵野文学散歩 & おいしいランチ

2023年 9月22日(金)

10時30分~15時

集合・解散: JR 中央線三鷹駅

コース:

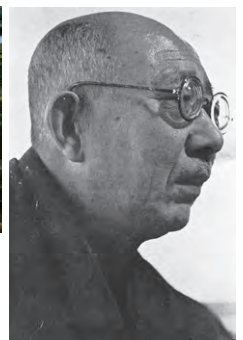
山本有三記念館▶太宰治文学サロン
▶三鷹市美術ギャラリー太宰治展示室
ランチは「ウィルビウス」(フレンチ)

定員: 18名(先着順) 参加費: 4,500円

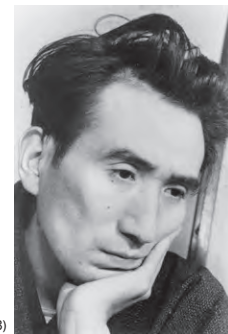
申込/問合せ: 見学会担当 中山正子
Tel&Fax: 045-541-2481 携帯: 090-6514-8135
Email: masako@c02.itscom.net



山本有三記念館(*1)



(*2)



(*3)



*1: CC4.0 (Author; Edomura no Tokuzo)
*2, *3: Public Domain

サークル案内

水墨画教室と映画クラブについて、今号では、P.9に詳しく記載しています。

2023年度 東京支部新入会員

桑野啓子 (東京女子大学短期大学部)
笹澤有紀子 (慶應義塾大学)

お悔やみ申し上げます

伊藤智恵子様 2023年2月16日 ご逝去

2023年度 東京支部委員会

- 支部長 鷺崎千春
- 副支部長 長谷川瑞穂
- 書記 長谷川瑞穂 太田恵子(新)
- 会計 菊地康子 森川淳子
- 支部委員 安東桂子 坂上栄美子
- 嶋田美恵子 進士多佳子
- 鈴木公江 中山正子 宮下摩維子
- 佐々木澄子 早川恵子
- 会計監査

*50音順 *記載後に括弧の記載がない委員は再任

支部からの連絡

- 住所等変更はご連絡ください。
- 会費未納の方はお早目にお願います。
- 91歳以上の会員の会費は免除することができます。
- 支部長までお申し出ください。
- 中野区視覚障害者福祉協会支援のため使用済み切手を事務所までお送りください。

ご寄付いただきました
ありがとうございます

坂上栄美子 中山律子 3万3千円
嶋田真紀子 松崎和子 *敬称略

《編集後記》

コロナ禍以降、ZOOMによる編集会議を頻繁に開いてまいりました。活動の報告と会員同士の親睦を深めるツールである「ともしび」の、いっそうの充実とともに、大学女性協会の理念と活動内容をより広く外部の人にも知っていただくことが目標です。Web(ホームページ他)の有効活用、そして、「ともしび」紙面の刷新など、議論を重ねました。今回の74号より、その成果を徐々に反映させていきたいと考えています。どうぞ、ご期待ください。

(編集担当) 嶋田、進士、安東、鈴木

